授業科目 成人言語障害学Ⅱ

【担当教員名】 渋谷直樹	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【一般目標：G I O】
 成人脳損傷者のリハビリテーションチームに専門職として参加するため、失語を中心にしてその言語治療の具体的方法を習得し、失語患者のコミュニケーションの改善に向けて行うさまざまな援助の方法を習得する。
 失語を対象にした言語治療の具体的方法を習得して実践するため、種々の技法を実習する。

- 【行動目標：S B O】
1. 失語の言語治療テクニックを列挙し、それぞれの特徴を説明できる。
 2. 失語の言語治療の流れを理解し、初回評価から訓練終了時までに行うべき臨床活動を述べることができる。
 3. 失語の具体的症例に対して訓練計画を立案する際の要点を説明できる。
 4. 失語の言語訓練材料を列挙し、その適応について説明できる。
 5. 地域での言語リハビリテーションの実態について説明できる。
 6. 失語の評価結果を基にして、言語治療計画が立案できる。
 7. 代表的な言語治療（訓練）技法を模擬的に実施できる。
 8. 言語訓練教材を言語症状に合わせて作成できる。
 9. 言語治療報告書を用途に応じて作成できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法、学習課題、備考
1	失語の言語治療の方法と適応（1）	1	講義、プリント、VTR、
2	失語の言語治療の方法と適応（2）	1	講義、プリント、VTR、
3	失語の言語治療の方法と適応（3）	1	講義、プリント、VTR、
4	言語治療計画の立て方	2	講義、プリント、VTR、
5	言語治療の実際（症例検討）	3	講義、プリント、VTR、
6	言語訓練教材の種類と開発	4	講義、プリント、VTR、
7	地域リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割	5	講義、プリント、VTR、
8	具体的な言語治療計画の例を分析する。	6	講義、プリント、VTR、
9	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。	7	演習
10	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。	7	演習
11	言語訓練教材を作成する	8	演習
12	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。		演習
13	教材を使用して模擬的に訓練を実施する。		演習
14	具体的な言語治療報告書を分析し、模擬的に報告書を書く。	9	演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	脳卒中後のコミュニケーション障害	竹内愛子・河内十郎編著	協同医書出版社	1995年、5600円 ISBN:4-7639-3009-5
参考書	適宜紹介する			
その他の資料	プリント			

【評価方法】 出席状況とレポート、 期末試験などにより総合的に評価する	【履修上の留意点】
---	-----------

言語聴覚学科 専門